2026年度

郡山健康科学専門学校
講義概要

メディカルスポーツ
柔道整復学科

1年生

学校法人こおりやま東都学園

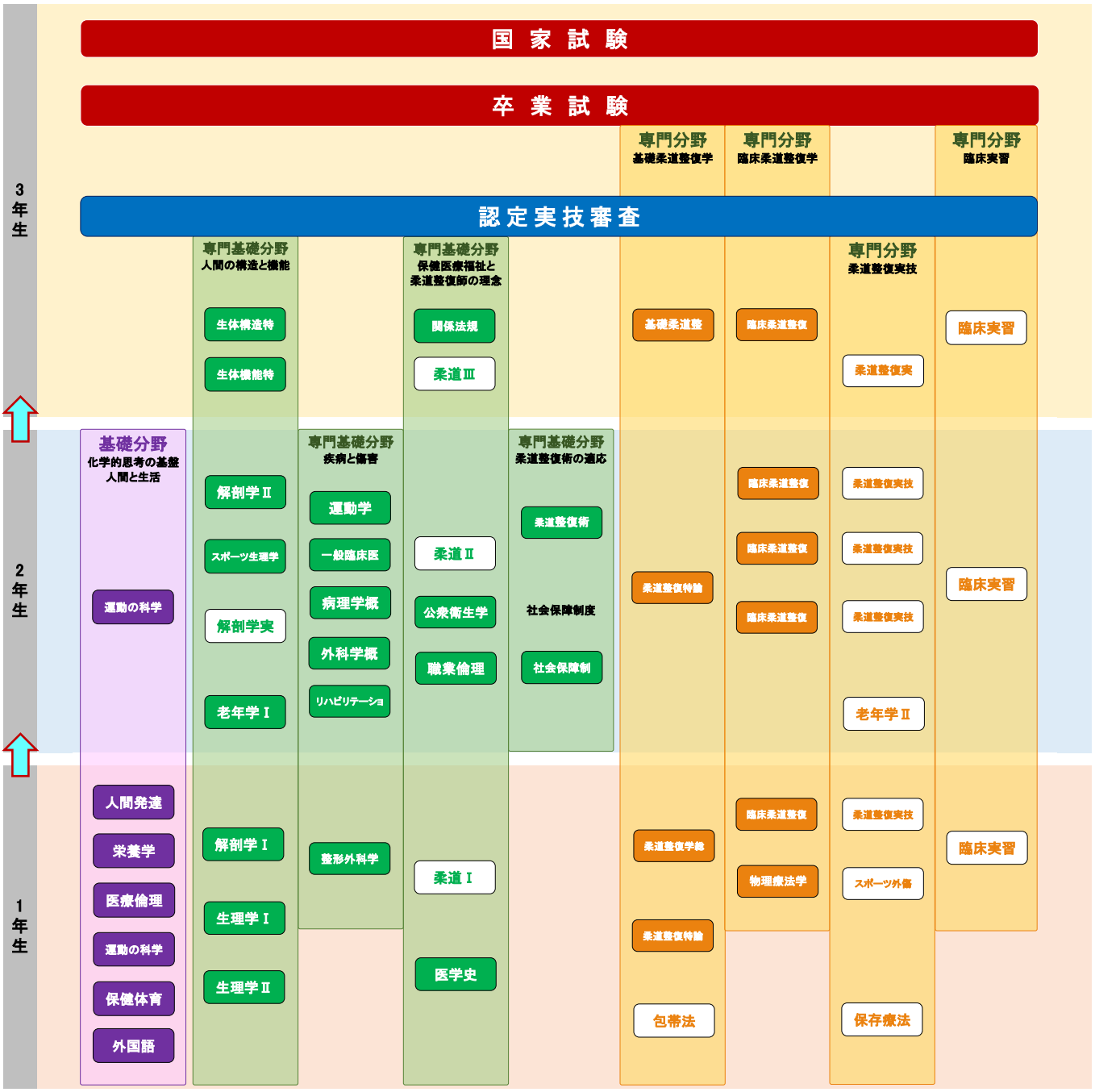
郡山健康科学専門学校　メディカルスポーツ柔道整復学科　2024年度 入学生

◆ ディプロマポリシー

- 柔道整復師に必要な基本的知識･技術を有し，疾患や障害を全人間的に捉えて臨床的推論を行う能力を身につけた人
- 医療の新知見を収集して自己研鑽し，根拠に基づいた医療を行う能力を身につけた人
- 他職種間の連携を図り，円滑なコミュニケーションによるチームアプローチを行う能力を身につけた人
- 高い倫理観と豊かな人間性を備え，社会に貢献する能力を身につけた人

◆ 柔道整復師として獲得すべき到達目標

コミュニケーション能力　チームアプローチの実践　問題対応能力　プロフェッショナリズム



ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科　2026年度生　履修一覧

1年		
教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
科学的思考の基礎 人間と生活	人間発達学	
	栄養学	
	医療倫理	●
	運動の科学Ⅰ	
	保健体育	
	外国語	
人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	●
	生理学Ⅰ	●
	生理学Ⅱ	●
疾病と傷害	整形外科学	●
保健医療福祉と柔道整復の理念	医学史	
	柔道Ⅰ	●
基礎柔道整復学	柔道整復学総論	●
	包帯法	●
	柔道整復特論Ⅰ	●
臨床柔道整復学	臨床柔道整復学Ⅰ	●
	物理療法	●
柔道整復実技	スポーツ外傷予防学	
	保存療法	●
	柔道整復実技Ⅰ	●
臨床実習	臨床実習Ⅰ	●

2年		
教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
科学的思考の基礎 人間と生活	運動の科学Ⅱ	
人体の構造と機能	解剖学Ⅱ	●
	解剖学実習	●
	老年学Ⅰ	●
	スポーツ生理学	●
疾病と傷害	運動学	●
	一般臨床医学	●
	病理学概論	●
	外科学概論	●
	リハビリテーション概論	●
柔道整復術の滝応	柔道整復術の適応	●
保健医療福祉と柔道整復の理念	柔道Ⅱ	●
	公衆衛生学	●
	職業倫理	●
社会保障制度	社会保障制度	●
基礎柔道整復学	柔道整復特論Ⅱ	●
臨床柔道整復学	臨床柔道整復学Ⅱ	●
	臨床柔道整復学Ⅲ	●
	臨床柔道整復学Ⅳ	●
柔道整復実技	柔道整復実技Ⅱ	●
	柔道整復実技Ⅲ	●
	柔道整復実技Ⅳ	●
	老年学Ⅱ	●
臨床実習	臨床実習Ⅱ	●

3年		
教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
人体の構造と機能	生体構造特論	●
	生体機能特論	●
保健医療と福祉と柔道整復の理念	柔道Ⅲ	●
	関係法規	●
基礎柔道整復学	基礎柔道整復学セミナー	●
臨床柔道整復学	臨床柔道整復学セミナー	●
	臨床的判断(画像理解)	●
柔道整復実技	柔道整復実技セミナー	●
臨床実習	臨床実習Ⅲ	●

1．基礎分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
人間発達学	山内　翼	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

発育・発達の観点を踏まえ、人体の構造と機能の基礎として骨および筋について学習し、各部位の名称・位置関係および筋の起始・停止・作用を理解するとともに、身体運動との関連性を把握する。

【学習目標(到達目標)】

①上肢・下肢・体幹・頭部の骨の名称と位置関係を理解する。
②各部位の主要な筋について、名称・起始・停止・作用を理解する。
③
④
⑤

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
問題解決力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	上肢の骨①	上肢の骨の名称を覚える①(肩甲骨、鎖骨、上腕骨)	個人
2	上肢の骨②	上肢の骨の名称を覚える②(前腕骨、手根骨、指骨)	個人
3	上肢の筋肉①	上肢の筋肉を覚える①(名称、起始停止、作用)	個人
4	上肢の筋肉②	上肢の筋肉を覚える②(名称、起始停止、作用)	個人
5	上肢の骨・筋肉まとめ	上肢の骨・筋肉の復習	個人
6	下肢の骨①	下肢の骨の名称を覚える①(骨盤、大腿骨)	個人
7	下肢の骨②	下肢の骨の名称を覚える②(下腿骨、足根骨、趾骨)	個人
8	下肢の筋肉①	下肢の筋肉を覚える①(名称、起始停止、作用)	個人
9	下肢の筋肉②	下肢の筋肉を覚える②(名称、起始停止、作用)	個人
10	下肢の骨・筋肉まとめ	下肢の骨・筋肉の復習	個人
11	体幹部の骨	体幹部の骨を覚える(頸椎・胸椎・腰椎)	個人
12	体幹部の筋肉	体幹部の筋肉を覚える(名称、起始停止、作用)	個人
13	頭部の骨	頭部の骨を覚える(顔面・脳頭蓋)	個人
14	頭部の筋肉	頭部の筋肉を覚える(名称、起始停止、作用)	個人
15	頭部・体幹部の骨・筋肉まとめ	頭部・体幹部の骨・筋肉まとめ	個人

期末試験		評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%	

【教科書】	出村慎一監修　テキスト保健・体育(改訂版)　大修館書店
【参考書】	藤井勝紀　発育・発達へのアプローチ　三恵者

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
栄養学	辻　匡子	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

日本人の健康と栄養状況は、医療・介護制度と生活レベルの向上により著しく高いものになり、平均寿命が男女ともに世界一を維持している。一方で、長年の食生活習慣の不摂生により生じる「生活習慣病」を理解し予防することを学ぶ。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①栄養の基本概念と栄養学の歴史について理解する。 ②ライフステージと食生活との関わりを理解する。 ③栄養学が身体で利用されるメカニズムを理解する。 ④ ⑤	知識・理解

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	栄養とは	栄養の定義、ヒトの成長と栄養、ヒトの健康と栄養について理解する。また、栄養素の定義、分類と役割について概説する。	個人
2	栄養学のあゆみ	古代から現代までの長い間に栄養学という学問がどのように生まれ発展し、体系化されたか、振り返ってみる。	個人
3	栄養素とそのはたらき (1)炭水化物	栄養素として食物に含まれる糖質の種類について解説する。糖質の種類、分類、化学構造について学ぶ。	個人
4	栄養素とそのはたらき (2)炭水化物	糖質が体内でエネルギーを発生し、二酸化炭素と水に分解するまでの過程を学ぶ。	個人
5	栄養素とそのはたらき (1)脂質	脂質の定義、分類、化学構造を生体内での役割について学ぶ。特に必須脂肪酸の理解をする。	個人
6	栄養素とそのはたらき (2)脂質	ヒトとエネルギー源として重要な脂質の体内での代謝について学ぶ。また、脂質の健康に及ぼす影響について知る。	個人
7	栄養素とそのはたらき (1)タンパク質	タンパク質の摂取の意義、化学構造、代謝を学習する。タンパク質の構成成分であるアミノ酸、特に必須アミノ酸を理解する。	個人
8	栄養素とそのはたらき (2)タンパク質	タンパク質の栄養価の評価方法を学ぶ、タンパク質のアミノ酸の補足効果を理解する。	個人
9	栄養素とそのはたらき ビタミン	微量栄養素として重要な脂溶性ビタミン、水溶性ビタミンの種類、体内での役割、欠乏症、過剰症、摂取量について学ぶ。	個人
10	栄養素とそのはたらき ミネラル(無機質)	微量栄養素として重要なミネラル(無機質)の種類、体内での役割、欠乏症、過剰症、摂取量について学ぶ。	個人
11	水と食物繊維	水と代謝と出納と機能性非栄養成分である食物繊維の分類、栄養学的効果を学ぶ。	個人
12	消化と吸収	消化器官と消化酵素、糖質、脂質、タンパク質のの消化吸収機能、食物の消化吸収に関する過程について理解する。	個人
13	エネルギー代謝	ヒトに必要なエネルギーの摂取と消費について学習する。エネルギー出納と体重変化に関する過程について理解する。	個人
14	スポーツと栄養	スポーツ栄養の理論を踏まえた基礎的な知識の習得をする。	個人
15	スポーツと栄養	活動時の栄養素等、摂取量を各種目別に特徴を学ぶ。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%

【教科書】	基礎栄養学　化学同人
【参考書】	必要に応じて印刷物を配布する

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	指示された問題を解答し、提出する。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
運動の科学Ⅰ	山内　翼	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	後期	15(30)	実習	2

【授業の概要・目的】

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストを使用して『競技者育成プログラム』の理念と指導法を身につけ、指導計画やトレーニング方法を習得する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①スポーツ指導の基礎知識と指導方法を身につける。 ②多様なニーズに対応した知識と指導方法を身につける。 ③競技者育成の高度な知識と指導方法を身につける。	知識・理解 考え抜く力 問題解決力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	コーチングを理解しよう	コーチングとは コーチに求められる役割を理解する	グループ
2	コーチングを理解しよう	コーチに求められる役割を理解する	グループ
3	コーチングを理解しよう	コーチに求められる役割求められる知識とスキルを理解する 対他者力を磨こう	グループ
4	コーチングを理解しよう	対他者力を磨こう	グループ
5	コーチングを理解しよう	対自己力を磨こう	グループ
6	コーチングを理解しよう	スポーツの意義と価値を理解する	グループ
7	コーチングを理解しよう	スポーツの意義と価値を理解する スポーツの価値を守るスポーツ権を理解する	グループ
8	コーチングを理解しよう	スポーツの自治-ガバナンスとコンプライアンス-を理解する 暴力・ハラスメントの根絶、スポーツのインテグリティ	グループ
9	コーチングを理解しよう	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 スポーツ仲裁、倫理、時代をリードするコーチングを理解する	グループ
10	グッドコーチに求められる 医・科学的知識	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系を理解する	グループ
11	グッドコーチに求められる 医・科学的知識	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系を理解する	グループ
12	グッドコーチに求められる 医・科学的知識	体力トレーニングを理解する	グループ
13	グッドコーチに求められる 医・科学的知識	体力トレーニングを理解する	グループ
14	グッドコーチに求められる 医・科学的知識	体力トレーニングを理解する	グループ
15	まとめ		グループ

期末試験	レポート	評価方法	レポート 90% 受講態度 10%

【教科書】	公益財団法人日本スポーツ協会 『Reference Book』
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保健体育(1/2)	山内　翼	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	通年	30(60)	実習	2

【授業の概要・目的】

体育とは，健康の維持・増進と，運動機能の向上を図る実践の場である．ネットを境界線とする球技，対人を相手とする球技を通じて，個人的・集団的技能を習得し，チームワークとしての自主性，積極性，協調性を育み，ルールの順守という社会的態度を育成する．更に個々の技能を習得，熟練を目指し，運動実践をすることにより，気分転換，ストレス解消といった心の健康を育むことを学習し，理解する．

【学習目標(到達目標)】

①各種のスポーツに触れ、実践することで基礎的な運動技能を高める。
②練習や試合を通してチームワークとコミュニケーションスキルを培うことができる。。
③体力増強を図り、逞しく生きる力を培う。
④試合では作戦を練り、互いに勝敗を競い合う。

【受講して得られる力】

考え抜く力
チームで働く力
前に踏み出す力
コミュンケーションスキル
知識・理解

【履修上の注意】**体操着、体育館シューズ、水分の準備を徹底すること。※私服、実習着、実習靴、アクセサリー等を身に付けたままの受講は認めない。**

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	1.ストレッチング運動の方法　2.活動時における取り組み方　3.器具・機材の安全管理	グループ
2	バレーボール	ルール説明とボール操作法の理解と練習(オーバーハンド及びアンダーハンドパス)	グループ
3		パスの復習とボール操作法の理解と練習(サーブの導入)	グループ
4		パス・サーブの復習とボール操作法の理解と練習(アタックの導入)	グループ
5		サーブ・アタックの復習と対人レシーブ	グループ
6		アタックの復習とゲームの導入(レセプションのフォーメーション説明とチームづくり)	グループ
7		対人レシーブ・アタックの復習とブロックの導入・チーム練習・ゲーム(リーグ戦1)	グループ
8		対人レシーブ・アタック・サーブ・チーム練習・ゲーム(リーグ戦2)	グループ
9	卓球	オープンハンドサービスの説明と出し方。オープンハンドサービスからのフォアハンド打法。	グループ
10		フォアハンド打法からとスマッシュ打法への発展練習。	グループ
11		バックハンド打法の説明と練習。フォアハンド、バックハンド打法の体勢(足の構え方)。	グループ
12		戦型別特徴の説明とフォアハンド打法とバックハンド打法の切り換え練習。	グループ
13		シングルス・ダブルスのルール説明とゲーム。	グループ
14	試験	実技試験の実施	グループ
15	まとめ	これまでの到達度の確認と各活動の振り返りを行う	グループ

期末試験	評価方法		
実施あり		授業への貢献	60%
		実技試験	40%

【教科書】	特になし
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	日頃からストレッチ・ジョギング・筋トレ等を行い基礎体力を養う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保健体育(2/2)	山内　翼	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	通年	30(60)	実習	2

【授業の概要・目的】

体育とは，健康の維持・増進と，運動機能の向上を図る実践の場である．ネットを境界線とする球技，対人を相手とする球技を通じて，個人的・集団的技能を習得し，チームワークとしての自主性，積極性，協調性を育み，ルールの順守という社会的態度を育成する．更に個々の技能を習得，熟練を目指し，運動実践をすることにより，気分転換，ストレス解消といった心の健康を育むことを学習し，理解する．

【学習目標(到達目標)】

①各種のスポーツに触れ、実践することで基礎的な運動技能を高める。
②練習や試合を通してチームワークとコミュニケーションスキルを培うことができる。。
③体力増強を図り、逞しく生きる力を培う。
④試合では作戦を練り、互いに勝敗を競い合う。

【受講して得られる力】

考え抜く力
チームで働く力
前に踏み出す力
コミュンケーションスキル
知識・理解

【履修上の注意】**体操着、体育館シューズ、水分の準備を徹底すること。※私服、実習着、実習靴、アクセサリー等を身に付けたままの受講は認めない。**

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	バドミントン	グリップの握り方、フォアハンドとバックハンドの打ち方の違いを説明し、シャトルに慣れさせる練習を行う。	グループ
2		ロングサービス、ショートサービスの打ち方、ドライブの打ち方について説明し、この練習を行う	グループ
3		プッシュ、クリアー、ドロップ、ヘアピンの打ち方について説明し、この練習を行う。	グループ
4		スマッシュの打ち方を説明し、その練習を行う。	グループ
5		シングルスについて説明し、ゲームを行う。	グループ
6		ダブルスについて説明し、ゲームを行う。	グループ
7	バスケットボール	ボールコントロールに関する技術の習得①(シュート、パス)	グループ
8		ボールコントロールに関する技術の習得②(ドリブル、リバウンド)	グループ
9		ボディーコントロールに関する技術の習得①(チェンジオブディレクション)	グループ
10		ボディーコントロールに関する技術の習得②(ストップターン、ピボット、ディフェンスフットワーク)	グループ
11		1対1のオフェンス(アウトサイドエリアとインサイドエリアでのボールのもらい方などを習得する)	グループ
12		1対1のディフェンス(ボール保持者とボール非保持者のディフェンスの基本)	グループ
13		ゲームを通してルールの理解と審判法を学ぶ	グループ
14	試験	実技試験の実施	グループ
15	まとめ	これまでの到達度の確認と各活動の振り返りを行う	グループ

期末試験	実施あり	評価方法	授業への貢献 60% 実技試験 40%	

【教科書】	特になし
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	日頃からストレッチ・ジョギング・筋トレ等を行い基礎体力を養う。		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
外国語(1/2)	刈屋　俊樹	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

アメリカの代表的な絵本を教材として使用し、講義を行う。絵本を通して文化や習慣の違いを理解し、発音の仕方や様々な表現方法を覚え、考える力を身に付ける。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①コミュニケーション能力の向上 ②基本的な発音方法の習得 ③英語を話す喜びの体得 ④ ⑤	コミュンケーションスキル 前に踏み出す力 考え抜く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	フォニックス、絵本読解指導 絵本1指導:「No,David!」	授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本1　講義に集中し、積極的に発話する	個人
2	フォニックス、絵本読解指導 絵本1指導:「No,David!」	授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本1　講義に集中し、積極的に発話する	個人
3	フォニックス、絵本読解指導 絵本1指導:「No,David!」	授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本1　講義に集中し、積極的に発話する	個人
4	フォニックス、絵本読解指導 絵本1指導:「No,David!」	授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本1　講義に集中し、積極的に発話する	個人
5	フォニックス、絵本読解指導 絵本1指導:「No,David!」	授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本1　講義に集中し、積極的に発話する	個人
6	フォニックス、絵本読解指導 絵本2指導:「I LIKE ME!」	授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本2　講義に集中し、積極的に発話する	個人
7	フォニックス、絵本読解指導 絵本2指導:「I LIKE ME!」	授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本2　講義に集中し、積極的に発話する	個人
8	フォニックス、絵本読解指導 絵本2指導:「I LIKE ME!」	授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本2　講義に集中し、積極的に発話する	個人
9	フォニックス、絵本読解指導 絵本2指導:「I LIKE ME!」	授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本2　講義に集中し、積極的に発話する	個人
10	フォニックス、絵本読解指導 絵本2指導:「I LIKE ME!」	授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本2　講義に集中し、積極的に発話する	個人
11	フォニックス、絵本読解指導 絵本3指導:「THE CARROT SEED」	授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本3　講義に集中し、積極的に発話する	個人
12	フォニックス、絵本読解指導 絵本3指導:「THE CARROT SEED」	授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本3　講義に集中し、積極的に発話する	個人
13	フォニックス、絵本読解指導 絵本3指導:「THE CARROT SEED」	授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本3　講義に集中し、積極的に発話する	個人
14	フォニックス、絵本読解指導 絵本3指導:「THE CARROT SEED」	授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本3　講義に集中し、積極的に発話する	個人
15	フォニックス、絵本読解指導 絵本3指導:「THE CARROT SEED」	授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本3　講義に集中し、積極的に発話する	個人

期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験 60%	授業への貢献 20%
			実技試験 20%	

【教科書】	「No,David!」「I LIKE ME!」「THE CARROT SEED」
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	講義を集中して受講し、英語での発音を積極的に行う

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
外国語(2/2)	刈屋　俊樹	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

アメリカの代表的な絵本を教材として使用し、講義を行う。絵本を通して文化や習慣の違いを理解し、発音の仕方や柔道整復師としての様々な表現方法を覚え、考える力を身に付ける。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①コミュニケーション能力の向上 ②基本的な発音方法の習得 ③英語を話す喜びの体得 ④柔道整復師としての英会話力向上 ⑤	コミュンケーションスキル 前に踏み出す力 考え抜く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	絵本読解指導 補充教材:「Love you forever」	授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 補助教材　講義に集中し、積極的に発話する	個人
2	絵本読解指導 補充教材:「Love you forever」	授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 補助教材　講義に集中し、積極的に発話する	個人
3	絵本読解指導 補充教材:「Love you forever」	授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 補助教材　講義に集中し、積極的に発話する	個人
4	絵本読解指導 補充教材:「Love you forever」	授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 補助教材　講義に集中し、積極的に発話する	個人
5	絵本読解指導 補充教材:「Love you forever」	授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 補助教材　講義に集中し、積極的に発話する	個人
6	実践演習 会話文作成	授業導入における言語活動、実践的会話文作成演習 講義に集中し、積極的に発話する	個人
7	実践演習 会話文作成	授業導入における言語活動、実践的会話文作成演習 講義に集中し、積極的に発話する	個人
8	実践演習 会話文作成	授業導入における言語活動、実践的会話文作成演習 講義に集中し、積極的に発話する	個人
9	実践演習 会話文作成	授業導入における言語活動、実践的会話文作成演習 講義に集中し、積極的に発話する	個人
10	実践演習 会話文作成	授業導入における言語活動、実践的会話文作成演習 講義に集中し、積極的に発話する	個人
11	実践演習 会話文口頭演習	授業導入における言語活動、実践的会話文口頭演習 講義に集中し、積極的に発話する	個人
12	実践演習 会話文口頭演習	授業導入における言語活動、実践的会話文口頭演習 講義に集中し、積極的に発話する	個人
13	実践演習 会話文口頭演習	授業導入における言語活動、実践的会話文口頭演習 講義に集中し、積極的に発話する	個人
14	実践演習 会話文口頭演習	授業導入における言語活動、実践的会話文口頭演習 講義に集中し、積極的に発話する	個人
15	実践演習 会話文口頭演習	授業導入における言語活動、実践的会話文口頭演習 講義に集中し、積極的に発話する	個人

期末試験	後期期末試験	評価方法	筆記試験 60%	授業への貢献 20%
			実技試験 20%	

【教科書】	補充教材「Love you forever」
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	講義を集中して受講し、講義内容の復習を積極的に行う

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

2. 専門基礎分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
解剖学Ⅰ(1/2)	藤井　智貴	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	通年	30(60)	講義	4

【授業の概要・目的】

解剖学は、正常な人体の構造と機能を追究する学問であり、生体(ヒトを含み)の機能を研究する学問である生理学とあわせて、基礎中の基礎の領域である。解剖学Ⅰでは、柔道整復師としての基礎知識の必要性を認識するために、人体の基礎構造および骨格系について学習する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①解剖学総論を学ぶ。 ②運動器を学ぶ。 ③ ④ ⑤	知識・理解

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	人体解剖学概説　1	解剖学の意義、解剖学の分類、解剖学用語、人体各部の名称	個人
2	人体解剖学概説　2	細胞	個人
3	人体解剖学概説　3	組織(上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織)	個人
4	人体解剖学概説　4	人体の発生	個人
5	人体解剖学概説　5	各組織、器官の発生、器官の定義、器官系	個人
6	運動系　骨格系　1	人体の区分、細区分、区分線	個人
7	運動系　骨格系　2	骨の役割、骨の形状による分類、骨の構造、骨の発生と成長	個人
8	運動系　骨格系　3	骨表面の形状についての用語、骨の連結	個人
9	運動系　骨格系　4	関節の分類	個人
10	運動系　骨格系　5	各論　脊柱	個人
11	運動系　骨格系　6	各論　胸郭	個人
12	運動系　骨格系　7	各論　上肢骨	個人
13	運動系　骨格系　8	各論　上肢の関節	個人
14	運動系　骨格系　9	各論　下肢骨	個人
15	運動系　骨格系　10	各論　下肢の関節	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会監修 『解剖学』 改訂第2版 (医歯薬出版)
【参考書】	プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系 第2版 (医学書院)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	解剖学の教科書をよく読み、予習復習を怠らないこと

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
解剖学Ⅰ(2/2)	藤井　智貴	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	通年	30(60)	講義	4

【授業の概要・目的】

解剖学は、正常な人体の構造と機能を追究する学問であり、生体(ヒトを含み)の機能を研究する学問である生理学とあわせて、基礎中の基礎の領域である。解剖学Ⅰでは、柔道整復師としての基礎知識の必要性を認識するために、人体の基礎構造および骨格系について学習する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①解剖学総論を学ぶ。 ②運動器を学ぶ。 ③脳・神経構造と機能を学習する。 ④ ⑤	知識・理解

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	運動系　骨格系　11(藤井)	各論　頭蓋	個人
2	運動系　骨格系　12(藤井)	頭蓋底、頭蓋泉門、顎関節	個人
3	運動系　筋系　1(藤井)	筋組織の種類と特徴、筋の形態	個人
4	運動系　筋系　2(藤井)	筋の起始部・停止部、筋の作用、筋の補助装置	個人
5	運動系　筋系　3(藤井)	頭部(表情筋・咀嚼筋)・頚部の筋	個人
6	運動系　筋系　4(藤井)	胸部・腹部・背部の筋	個人
7	運動系　筋系　5(藤井)	肩甲骨に付着する筋と腱板を構成する筋	個人
8	運動系　筋系　6(藤井)	上腕・前腕の筋と支配神経	個人
9	運動系　筋系　7(藤井)	下肢帯・大腿の筋と神経支配	個人
10	運動系　筋系　8(藤井)	下腿の筋と支配神経	個人
11	運動系　筋系　9(藤井)	足の筋と支配神経	個人
12	神経系　1(髙橋)	神経系の分類とニューロンの構造	個人
13	神経系　2(髙橋)	脳室系・髄膜・脳脊髄液と脳の発生	個人
14	神経系　3(髙橋)	末梢神経:脳神経	個人
15	神経系　4(髙橋)	末梢神経:脊髄神経、自律神経	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会監修 『解剖学』 改訂第2版 (医歯薬出版)
【参考書】	プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系 第2版 (医学書院)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学の教科書をよく読み、予習復習を怠らないこと

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
生理学Ⅰ	熊澤　真理子	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

生理学では身体の機能について学ぶ。細胞が集まって組織となり、それが集まって器官を構成し、ある目的を持った器官が集まって系統となる。個々の組織、器官、系統、さらに個体レベルでの機能を形態的特徴と関連付けて学習する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①人体を構成する細胞、各組織、器官の構造と機能について理解する。	知識・理解
②各組織、器官の個々の役割について学ぶ。	問題解決力
③個体レベルで各組織、器官の関連と生体機能の調節系について学ぶ。	論理的思考力
④	
⑤	

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	生理学の基礎	生理学とは、人体を構成する要素、ホメオスタシス、からだの化学的構成、細胞の機能的構造	個人
2	生理学の基礎	拡散,浸透,ろ過、受動輸送と能動輸送、エンドサイトーシスとエクソサイトーシス	個人
3	血液の生理学	血液の役割、血液の組成	個人
4	血液の生理学	免疫機能	個人
5	血液の生理学	血液型、血液の凝固	個人
6	循環の生理学	心臓の機能、血管系	個人
7	循環の生理学	血圧、リンパ管系、循環の調節	個人
8	循環の生理学	局所循環、脳脊髄液循環	個人
9	呼吸の生理学	呼吸器の機能的構造、換気	個人
10	呼吸の生理学	ガス交換、血液中の酸素の運搬・二酸化炭素の運搬	個人
11	呼吸の生理学	呼吸を調節するしくみ、呼吸の異常	個人
12	呼吸の生理学	特殊環境下の呼吸、人工呼吸	個人
13	栄養と代謝	代謝、中間代謝、エネルギー代謝	個人
14	体温とその調節	体温、体温の生体的変動、体内における熱の産生	個人
15	体温とその調節	体温の調節、うつ熱と発熱	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『生理学』 改訂第4版 (南江堂)
【参考書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『生理学』 改訂第3版 (南江堂)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
生理学Ⅱ	熊澤　真理子	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

生理学では身体の機能について学ぶ。細胞が集まって組織となり、それが集まって器官を構成し、ある目的を持った器官が集まって系統となる。個々の組織、器官、系統、さらに個体レベルでの機能を形態的特徴と関連付けて学習する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①人体を構成する細胞、各組織、器官の構造と機能について理解する。	知識・理解
②各組織、器官の個々の役割について学ぶ。	問題解決力
③個体レベルで各組織、器官の関連と生体機能の調節系について学ぶ。	論理的思考力
④	
⑤	

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	神経の基本的機能	神経細胞の形態、静止膜電位、活動電位	個人
2	神経の基本的機能	閾刺激、全か無かの法則、不応期、イオンチャネル	個人
3	神経の基本的機能	興奮の伝導、複合活動電位、興奮の伝達	個人
4	神経系の機能	神経系の成り立ち	個人
5	神経系の機能	内臓機能の調節、内臓機能の視床下部による調節	個人
6	神経系の機能	姿勢と運動の調節	個人
7	神経系の機能	高次機能	個人
8	内分泌系の機能	内分泌腺、ホルモンの一般的性質、ホルモンの種類と作用	個人
9	内分泌系の機能	視床下部ホルモン、下垂体のホルモン、甲状腺のホルモン	個人
10	内分泌系の機能	副腎皮質のホルモン、副腎髄質のホルモン	個人
11	内分泌系の機能	膵臓のホルモン、精巣のホルモン、卵巣のホルモン	個人
12	生殖	性染色体とその異常、性分化	個人
13	生殖	男性生殖器の構成、精子形成、勃起と射精	個人
14	生殖	女性生殖器の構成、卵巣周期、月経周期	個人
15	生殖	卵巣周期中のゴナドトロピンと卵巣、妊娠と分娩、乳汁分泌	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『生理学』 改訂第4版 (南江堂)
【参考書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『生理学』 改訂第3版 (南江堂)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
整形外科学	佐藤　正憲	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

運動器疾患の構造と機能を理解し、整形外科的診断、治療法を理解する。骨折、脱臼、および神経、関節、脊椎、上肢、下肢の外傷、先天異常、骨軟部腫瘍、感染症、骨系統疾患、筋疾患、各関節脊椎の慢性・変性疾患について解説する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①整形外科の基礎知識を習得すること。 ②臨床現場で遭遇する症候について鑑別診断できること。 ③国家試験に合格する知識をつけること。 ④ ⑤	知識・理解

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	運動器の基礎ー構造と機能 整形外科診察法		個人
2	整形外科検査法		個人
3	整形外科的治療法		個人
4	骨・関節損傷総論		個人
5	スポーツ整形外科総論 リハビリテーション総論		個人
6	疾患別各論	感染性疾患、骨および軟部腫瘍を理解する	個人
7	疾患別各論	非感染性軟部・骨関節疾患　を理解する	個人
8	疾患別各論	全身性の骨・軟部疾患、骨端症、四肢循環障害、 神経・筋疾患を理解する	個人
9	身体部位別各論	体幹についてを理解する	個人
10	身体部位別各論	肩・肩甲帯、上腕・肘関節について理解する	個人
11	身体部位別各論	前腕、手関節、手・手指、骨盤・股関節について理解する	個人
12	身体部位別各論	大腿・股関節、下腿・足関節　足・足趾について理解する	個人
13	模擬試験		個人
14	模擬試験　解説1	整形外科学についてより深く理解する	個人
15	模擬試験　解説2	整形外科学についてより深く理解する	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　90% 受講態度　10%

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修　『整形外科学』 改訂第4版 （南江堂）
【参考書】	標準　整形外科学 第14版

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
医学史	片桐　秀樹	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	前期	8(15)	講義	1

【授業の概要・目的】

医学の芽生えから現代までの発展を理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①医学の発展、そのきっかけを知り何を感じたかまとめることができる。 ②読解力を向上させることができる。 ③ ④ ⑤	コミュンケーションスキル チームで働く力 統合的学習体験

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	医学の芽生え	四大文明の医学の発展の違いについて理解する	ペア
2	解剖学の夜明け	当時の解剖や怪我の手当てについて理解する	ペア
3	日本医学の歩み①	国外医学の日本への流入やその発展について理解する	ペア
4	日本医学の歩み②	国外医学の日本への流入やその発展について理解する	ペア
5	華岡青州 ジェンナー	世界初の全身麻酔手術について理解する 天然痘ワクチン誕生について理解する	ペア
6	全身麻酔法の発見	全身麻酔の種類やその発見について理解する	ペア
7	消毒法の発見	消毒法発見のきっかけについて理解する	ペア
8	北里　柴三郎 野口　英世	日本近代医学の父について理解する 福島を代表する偉人を知ろう	ペア
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

期末試験	レポート	評価方法	レポート 60%	課題の達成度 30%
			受講態度 10%	

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)
【参考書】	まんが　医学の歴史

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 特になし

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道Ⅰ(1/2)	刈屋　遵	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	通年	23(45)	実習	1

【授業の概要・目的】

社会に貢献できる柔道整復師となるために、柔道に必要な基本的技能を修得する。また、技能修得を通して心身の鍛錬を重ね、人格形成を図り、礼儀正しい立ち振る舞いを身につける。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①礼法(立礼・座礼)ができる。	知識・理解
②柔道衣を正しく着れる。	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③柔道基本姿勢、組手、受身を修得する。	態度・志向性
④柔道の精神を体現できる。	前に踏み出す力
⑤	

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	礼法　1	柔道の礼法を説明する	ペア
2	礼法　2	柔道の礼法を身につける	ペア
3	後方受身	後方受身を身につける	個人
4	横受身・前受身	横受身・前受身を身につける	個人
5	前方回転受身　1	立ち膝からの前方回転受身を身につける	個人
6	前方回転受身　2	立位からの前方回転受身を身につける	個人
7	前方回転受身　3	立位からの前方回転受身を身につける	個人
8	投技(大腰)　1	大腰を説明する	ペア
9	投技(大腰)　2	大腰を身につける	ペア
10	投技(大内刈)　1	大内刈を説明する	ペア
11	投技(大内刈)　2	大内刈を身につける	ペア
12	投技(小内刈)　1	小内刈を説明する	ペア
13	投技(小内刈)　2	小内刈を身につける	ペア
14	実技試験		ペア
15	まとめ	礼法、受身、投技を確認する	ペア

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験　80% 受講態度　20%

【教科書】	特になし
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	日頃の健康管理を十分にして、欠席しないように努める。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道Ⅰ(2/2)	刈屋　遵	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	通年	23(45)	実習	1

【授業の概要・目的】

社会に貢献できる柔道整復師となるために、柔道に必要な基本的技能を修得する。また、技能修得を通して心身の鍛錬を重ね、人格形成を図り、礼儀正しい立ち振る舞いを身につける。

【学習目標(到達目標)】

①投技ができる。
②固技ができる。
③柔道姿勢、組手、受身を修得する。
④柔道の精神を体現できる。
⑤

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
態度・志向性
前に踏み出す力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	投技　1	背負投げの説明を行う	ペア
2	投技　2	背負投げを理解する	ペア
3	投技　3	背負投げを身につける	ペア
4	寝技　1	袈裟固:正しい抑え方と逃げ方を身につける	ペア
5	寝技　2	横四方固:正しい抑え方と逃げ方を身につける	ペア
6	寝技　3	上四方固:正しい抑え方と逃げ方を身につける	ペア
7	実技試験		ペア
8	まとめ	投技、寝技を確認する	ペア
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験　80% 受講態度　20%	

【教科書】	特になし
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	日頃の健康管理を十分にして、欠席しないように努める。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

３．専門分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復学総論(1/3) ※実務経験のある教員による授業科目	小野　博司 接骨院(柔道整復師)29年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	通年	45(90)	講義	3

【授業の概要・目的】

骨損傷についての基礎的な知識を習得し活用できるようにする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①骨損傷について理解をする。 ②様々な骨損傷の表現方法を理解し活用できるようにする。 ③骨損傷の知識を臨床に応用できるようにする。 ④ ⑤	考え抜く力 情報活用能力 知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	概説	柔道整復術および柔道整復師の沿革を理解する。	個人
2	人体に加わる力	損傷時に加わる力を理解する。	個人
3	骨の損傷①	骨の形態と機能を理解する。	個人
4	骨の損傷②	骨折の分類を理解する。	個人
5	骨の損傷③	骨折の分類の理解を深める。	個人
6	骨の損傷④	骨折の局所症状を理解する。	個人
7	骨の損傷⑤	骨折の全身症状を理解する。	個人
8	骨の損傷⑥	骨折の合併症(併発症、続発症)を理解する。	個人
9	骨の損傷⑦	骨折の合併症(後遺症)を理解する。	個人
10	骨の損傷⑧	小児骨折を理解する。	個人
11	骨の損傷⑨	高齢者の骨折を理解する。	個人
12	骨の損傷⑩	骨折の癒合日数を理解する。	個人
13	骨の損傷⑪	骨折の治癒経過を理解する。	個人
14	骨の損傷⑫	骨折の予後，整復法を理解する。	個人
15	総復習	骨折の総論のより深い知識を身につける。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80%	授業への貢献 10%
			受講態度 10%	

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復学総論(2/3) ※実務経験のある教員による授業科目	小野　博司 接骨院(柔道整復師)29年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	通年	45(90)	講義	3

【授業の概要・目的】

脱臼及び軟部組織損傷についての基礎的な知識を習得し活用できるようにする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①脱臼について理解をする。 ②様々な脱臼の表現方法を理解し活用できるようにする。 ③脱臼の知識を臨床に応用できるようにする。 ④軟部組織損傷について理解する。 ⑤	考え抜く力 知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	関節の損傷①	関節の構造と機能を理解する。	個人
2	関節の損傷②	関節構成組織の損傷(靭帯、関節包)を理解する。	個人
3	関節の損傷③	関節構成組織の損傷(関節軟骨)を理解する。	個人
4	脱臼①	脱臼の分類を理解する。	個人
5	脱臼②	脱臼の症状、合併症を理解する。	個人
6	脱臼③	脱臼の経過と予後、整復法を理解する。	個人
7	軟部組織損傷①	筋の損傷を理解する。	個人
8	軟部組織損傷②	腱の損傷を理解する。	個人
9	軟部組織損傷③	末梢神経の損傷を理解する。	個人
10	軟部組織損傷④	末梢神経の損傷のより深い知識を身に付ける。	個人
11	軟部組織損傷⑤	軟部組織損傷の初期治療を理解する。	個人
12	診察	診察について理解する。	個人
13	関節可動域①	表示の仕方についての理論を理解する。	個人
14	関節可動域②	測定法の理論を理解する。	個人
15	総復習	脱臼、軟部組織損傷の復習し、より深い知識を身につける。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80%	授業への貢献 10%
			受講態度 10%	

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復学総論(3/3) ※実務経験のある教員による授業科目	小野　博司 接骨院(柔道整復師)29年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	通年	45(90)	講義	3

【授業の概要・目的】

骨折、脱臼、軟部組織損傷の基礎的な知識を深め活用できるようにする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解を深める ②骨折、脱臼、軟部組織損傷についての知識の応用力を身に付ける ③骨折の知識を説明できるようにする ④ ⑤	考え抜く力 チームで働く力 コミュンケーションスキル 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	骨損傷問題作成	ペアでの復習+問題作成をすることにより理解を深める。	ペア
2	骨損傷問題作成	他のペアが作成した問題を解くことにより理解を深める。	ペア
3	骨損傷問題作成	グループでの復習+問題作成をすることにより活用できる知識を身につける。	グループ
4	骨損傷問題作成	他グループが作成した問題を解くことにより活用できる知識を身につける。	グループ
5	脱臼問題作成	グループでの復習+問題作成をすることにより活用できる知識を身につける。	グループ
6	脱臼問題作成	他グループが作成した問題を解くことにより活用できる知識を身につける。	グループ
7	軟部組織損傷問題作成	グループでの復習+問題作成をすることにより活用できる知識を身につける。	グループ
8	軟部組織損傷問題作成	他グループが作成した問題を解くことにより活用できる知識を身につける。	グループ
9	骨折の授業発表	各グループ授業資料作成するために骨折について調べ知識を身につける。	グループ
10	骨折の授業発表	各グループ授業資料作成しより深い知識を身につける。	グループ
11	骨折の授業発表	各グループ授業資料作成し活用できる知識を身につける。	グループ
12	骨折の授業発表	各グループ授業資料作成し説明できるようにする。	グループ
13	骨折の授業発表	各グループ発表を聞きより深い知識を身につける①	グループ
14	骨折の授業発表	各グループ発表を聞きより深い知識を身につける②	グループ
15	総復習	総論の復習	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 50% 受講態度 10%	発表会の結果 40%

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
包帯法(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目	片桐　秀樹 整形外科(柔道整復師)6年勤務、接骨院(柔道整復師)26年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

基礎解剖学・基礎生理学を理解し、軟部組織損傷を系統的に分類し各組織損傷について理解を深める柔道整復学の固定を理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①包帯の基本を理解する。 ②各部位の基本的な固定法を学ぶ。 ③ ④ ⑤	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	包帯固定学総論	硬性材料・軟性材料 各種固定材料を理解する。	ペア
2	固定材料の種類	固定の目的、固定の範囲、固定の肢位 上記を正しく理解する。	ペア
3	巻軸帯の巻き方と注意事項1	包帯の巻き方の基本・持ち方・巻き始めと終わり 上記を正しく理解する。	ペア
4	巻軸帯の巻き方と注意事項2	巻き進め方向・巻き締め強度・均等圧・美しさ・巻く速さ 上記を正しく理解する。	ペア
5	巻軸帯の巻き戻し	巻軸帯の巻き戻し方 上記を正しく理解する。	ペア
6	基本包帯法　1	環行帯・螺旋帯 上記を正しく理解する。	ペア
7	基本包帯法　2	蛇行帯・折転帯 上記を正しく理解する。	ペア
8	基本包帯法　3	亀甲(翼状)帯・麦穂(人字帯、スカルパ巻)帯 上記を正しく理解する。	ペア
9	冠名包帯法　1	デゾー包帯(左右)側 上記を正しく理解する。	ペア
10	冠名包帯法　2	ヴェルポー包帯(左右側)・ジュール包帯(左右側) 上記を正しく理解する。	ペア
11	部位別包帯法　1	肩関節部固定法 上記を正しく理解する。	ペア
12	部位別包帯法　2	上腕部固定法 上記を正しく理解する。	ペア
13	部位別包帯法　3	肘関節部固定法・前腕部固定法 上記を正しく理解する。	ペア
14	実技試験		ペア
15	まとめ		ペア

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験　80% 受講態度　20%

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『包帯固定学』 改訂第2版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
包帯法(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目	片桐　秀樹 整形外科（柔道整復師）6年勤務、接骨院（柔道整復師）26年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	通年	30(60)	実習	2

【授業の概要・目的】

基礎解剖学・基礎生理学を理解し、軟部組織損傷を系統的に分類し各組織損傷について理解を深める柔道整復学の固定を理解する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①包帯の基本を理解する。 ②各部位の基本的な固定法を学ぶ。 ③ ④ ⑤	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	部位別包帯法　4	手関節部固定法・手指部固定法 上記を正しく理解する。	ペア
2	部位別包帯法　5	股関節部固定法 上記を正しく理解する。	ペア
3	部位別包帯法　6	大腿部固定法 上記を正しく理解する。	ペア
4	部位別包帯法　7	膝関節部固定法 上記を正しく理解する。	ペア
5	部位別包帯法　8	下腿部固定法 上記を正しく理解する。	ペア
6	部位別包帯法　9	足関節部固定法 上記を正しく理解する。	ペア
7	部位別包帯法　10	足背部固定法・足指部固定法 上記を正しく理解する。	ペア
8	各部位の副子固定1	上肢の各部を副子を用いて固定する。 上記を正しく理解する。	ペア
9	各部位の副子固定2	体幹の各部を副子を用いて固定する。 上記を正しく理解する。	ペア
10	各部位の副子固定3	下肢の各部を副子を用いて固定する。 上記を正しく理解する。	ペア
11	ギプス固定1	石膏ギプスを用いた固定法 上記を正しく理解する。	ペア
12	ギプス固定2	キャストライトギプスを用いた固定法 上記を正しく理解する。	ペア
13	ギプス固定3	プライトンを用いた固定法 上記を正しく理解する。	ペア
14	実技試験		ペア
15	まとめ		ペア

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験　80% 受講態度　20%

【教科書】	（公社）全国柔道整復学校協会　監修 『包帯固定学』 改訂第2版 （南江堂）
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復特論Ⅰ(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目	藤井　智貴 整形外科(柔道整復師)4年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	前期	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

関節の構造と種類と筋の起始停止を理解する

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①関節を構成する骨を理解することができる ②関節の種類を理解することができる ③筋の起始停止を理解し作用を理解できる ④ ⑤	考え抜く力 問題解決力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	関節の構造①	骨数による分類　運動軸数による分類 関節面の形状による分類を理解する	ペア
2	関節の構造②	骨数による分類　運動軸数による分類 関節面の形状による分類を理解する	ペア
3	関節の構造③	骨数による分類　運動軸数による分類 関節面の形状による分類を理解する	ペア
4	関節の構造④	骨数による分類　運動軸数による分類 関節面の形状による分類を理解する	ペア
5	上肢骨格筋の起始停止①	上肢骨格筋の起始停止について理解する	ペア
6	上肢骨格筋の起始停止②	上肢骨格筋の起始停止について理解する	ペア
7	上肢骨格筋の起始停止③	上肢骨格筋の起始停止について理解する	ペア
8	上肢骨格筋の起始停止④	上肢骨格筋の起始停止について理解する	ペア
9	上肢骨格筋の起始停止⑤	上肢骨格筋の起始停止について理解する	ペア
10	上肢骨格筋の起始停止⑥	上肢骨格筋の起始停止について理解する	ペア
11	上肢骨格筋の起始停止⑦	上肢骨格筋の起始停止について理解する	ペア
12	上肢骨格筋の起始停止⑧	上肢骨格筋の起始停止について理解する	ペア
13	下肢骨格筋の起始停止①	下肢骨格筋の起始停止について理解する	ペア
14	下肢骨格筋の起始停止②	下肢骨格筋の起始停止について理解する	ペア
15	総復習①	関節と筋の起始停止について総合的に理解する	ペア

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80%	小テスト 10%
			受講態度 10%	

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『解剖学』 改訂第2版 (医歯薬出版)
	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復特論Ⅰ(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目	藤井　智貴 整形外科(柔道整復師)4年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	前期	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

関節の構造と種類と筋の起始停止を理解する

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①関節を構成する骨を理解することができる ②関節の種類を理解することができる ③筋の起始停止を理解し作用を理解できる ④ ⑤	考え抜く力 問題解決力 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	下肢骨格筋の起始停止③	下肢骨格筋の起始停止について理解する	ペア
2	下肢骨格筋の起始停止④	下肢骨格筋の起始停止について理解する	ペア
3	下肢骨格筋の起始停止⑤	下肢骨格筋の起始停止について理解する	ペア
4	下肢骨格筋の起始停止⑥	下肢骨格筋の起始停止について理解する	ペア
5	下肢骨格筋の起始停止⑦	下肢骨格筋の起始停止について理解する	ペア
6	下肢骨格筋の起始停止⑧	下肢骨格筋の起始停止について理解する	ペア
7	頭部・体幹骨格筋の起始停止①	頭部・体幹骨格筋の起始停止について理解する	ペア
8	頭部・体幹骨格筋の起始停止②	頭部・体幹骨格筋の起始停止について理解する	ペア
9	頭部・体幹骨格筋の起始停止③	頭部・体幹骨格筋の起始停止について理解する	ペア
10	頭部・体幹骨格筋の起始停止④	頭部・体幹骨格筋の起始停止について理解する	ペア
11	頭部・体幹骨格筋の起始停止⑤	頭部・体幹骨格筋の起始停止について理解する	ペア
12	頭部・体幹骨格筋の起始停止⑥	頭部・体幹骨格筋の起始停止について理解する	ペア
13	総復習②	関節と筋の起始停止について総合的に理解する	ペア
14	総復習③	関節と筋の起始停止について総合的に理解する	ペア
15	総復習④	関節と筋の起始停止について総合的に理解する	ペア

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80%	小テスト 10%
			受講態度 10%	

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『解剖学』 改訂第2版 (医歯薬出版)
	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅰ(軟部損傷)(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目	三上　将貴 接骨院(柔道整復師)6年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	後期	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

軟部組織損傷の発生機序、症状、治療、見極め方を理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①各疾患の発生、症状を理解することができる。 ②各疾患の治療、見極め方を身に付けることができる。 ③キーワード(発生機序、症状)から何の疾患かを導き出すことができる。 ④ ⑤	問題解決力 専門職としてのｽｷﾙ・意識 論理的思考力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	頭部・顔面部の軟部組織損傷①	頭部・顔面部打撲　を理解する	個人
2	頭部・顔面部の軟部組織損傷②	顎関節症、顎関節捻挫　を理解する	個人
3	頸部の軟部組織損傷　その①	むちうち損傷　を理解する	個人
4	頸部の軟部組織損傷　その②	胸郭出口症候群、寝違え　を理解する	個人
5	胸・背部の軟部組織損傷	胸肋関節損傷、肋間筋損傷 胸背部打撲傷、背部の軟部組織損傷　を理解する	個人
6	腰部の軟部組織損傷	関節性、靭帯性、筋・筋膜性　を理解する	個人
7	頭部・体幹の軟部組織損傷	頭部・体幹の軟部組織損傷を総合的に理解する	個人
8	肩関節部の軟部組織損傷①	筋・腱の損傷、スポーツ損傷　を理解する	個人
9	肩関節部の軟部組織損傷②	不安定症　を理解する	個人
10	上腕部の軟部組織損傷	橈骨・尺骨神経損傷　を理解する	個人
11	肘関節部の軟部組織損傷	靭帯の損傷、野球肘・テニス肘　を理解する	個人
12	前腕部の軟部組織損傷	前腕コンパートメント症候群、腱交叉症候群、 末梢神経障害　を理解する	個人
13	手関節部の軟部組織損傷	TFCC損傷、ド・ケルバン病、末梢神経障害 キーンベック病、マーデルング変形　を理解する	個人
14	手部・指部の軟部組織損傷	腱・靭帯の損傷、その他の変性疾患および変形 を理解する	個人
15	上肢の軟部組織損傷	上肢の軟部組織損傷を総合的に理解する	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	80%	小テスト	10%
			受講態度	10%		

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅰ(軟部損傷)(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目	三上　将貴 接骨院(柔道整復師)6年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	後期	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

軟部組織損傷の発生機序、症状、治療、見極め方を理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①各疾患の発生、症状を理解することができる。 ②各疾患の治療、見極め方を身に付けることができる。 ③キーワード(発生機序、症状)から何の疾患かを導き出すことができる。 ④ ⑤	問題解決力 専門職としてのｽｷﾙ・意識 論理的思考力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	股関節部の軟部組織損傷①	鼠径部痛症候群、股関節唇損傷　を理解する	個人
2	股関節部の軟部組織損傷②	ばね股、梨状筋症候群　を理解する	個人
3	大腿部の軟部組織損傷	大腿部打撲、肉離れ　を理解する	個人
4	膝関節部の軟部組織損傷①	半月板損傷　を理解する	個人
5	膝関節部の軟部組織損傷②	靭帯損傷　を理解する	個人
6	膝関節部の軟部組織損傷③	腸脛靭帯炎、鵞足炎、その他の疾患　を理解する	個人
7	下腿部の軟部組織損傷　その①	アキレス腱の損傷・断裂　を理解する	個人
8	下腿部の軟部組織損傷　その②	肉離れ、スポーツ障害　を理解する	個人
9	足関節部の軟部組織損傷①	足関節捻挫　を理解する	個人
10	足関節部の軟部組織損傷②	足関節捻挫の類症鑑別　を理解する	個人
11	足・趾部の軟部組織損傷	有痛性障害、扁平足障害　を理解する	個人
12	下肢の軟部組織損傷	下肢の軟部組織損傷を総合的に理解する	個人
13	軟部組織損傷まとめ①	軟部組織損傷を総合的に理解する	個人
14	軟部組織損傷まとめ②	軟部組織損傷を総合的に理解する	個人
15	軟部組織損傷まとめ③	軟部組織損傷を総合的に理解する	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80%	小テスト 10%
			受講態度 10%	

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
物理療法学	後藤　優弥	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

柔道整復師が行う物理療法について分類、安全対策、禁忌、使用法を習得する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①物理療法の効果と禁忌や危険性を熟知し、患者に適切な物理療法が行えるようになる。	問題解決力
②物理療法の種類、分類を習得し、各外傷の治療時に適切な手段を選択できるようになる。	考え抜く力
③物理療法と手技療法の組み合わせ方を習得し、効果的な治療を実施できるようになる。	知識・理解
④	
⑤	

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	痛みの基礎①	痛みとは何かを理解し、評価・アプローチ方法を学ぶ。	個人
2	痛みの基礎②	痛みとは何かを理解し、評価・アプローチ方法を学ぶ。	個人
3	物理療法総論	物理療法の概念を理解し、正確に取り扱えるよう学ぶ。	個人
4	物理療法各論　電気療法①	電気療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。	個人
5	物理療法各論　電気療法②	電気療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。	個人
6	物理療法各論　温熱療法①	温熱療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。	個人
7	物理療法各論　温熱療法②	温熱療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。	個人
8	物理療法各論　温熱療法③	温熱療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。	個人
9	物理療法各論　温熱療法④	温熱療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。	個人
10	物理療法各論　光線療法	光線療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。	個人
11	物理療法各論　寒冷療法①	寒冷療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。	個人
12	物理療法各論　寒冷療法②	寒冷療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。	個人
13	物理療法各論　牽引療法	牽引療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。	個人
14	物理療法各論　その他の物理療法	その他の物理療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。	個人
15	物理療法まとめ	総合的に物理療法を理解する	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80%	受講態度 10%
			レポート 10%	

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)
【参考書】	エビデンスから身につける物理療法/庄本康治(羊土社)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
スポーツ外傷予防学	柳沼　優	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	後期	15(30)	実習	1

【授業の概要・目的】

正しい筋力トレーニング、怪我の予防、再発防止などの指導が出来るよう体作りを学ぶ

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①筋肉の構造を理解する ②正しい姿勢や器具の使い方を理解する ③各部位の筋力トレーニングプログラムの作成ができる ④スポーツ現場での応急処置ができる ⑤手技療法でできる事を理解する	考え抜く力 前に踏み出す力 チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	運動生理学①	運動とホメオスタシスを理解する	個人
2	運動生理学②	筋線維の種類やその特徴を理解する	個人
3	競技者と外傷予防 指導管理	外傷の発生要因・指導管理を理解する	ペア
4	関節弛緩性と関節可動域	アライメント・ストレッチング・関節弛緩テストを理解する	ペア
5	スポーツマッサージ	アイシング、揉捏、クリームを用いたマッサージを学ぶ	ペア
6	スポーツテーピング①	足関節テーピング・膝Xサポートを学ぶ	ペア
7	スポーツテーピング②	キネシオテーピングを学ぶ	ペア
8	器具を使わないトレーニング①	器具を使わない筋トレの種類を体験する	ペア
9	器具を使わないトレーニング②	器具を使わない筋トレの種類を体験する	ペア
10	ジムで行うトレーニング(マシン)	各部位のROM測定を行う	ペア
11	サーキットトレーニング(ジム) 筋トレプログラムの作成	無酸素運動と有酸素運動の組合せ/グループ学習を行う	グループ
12	サーキットトレーニング(ジム) 筋トレプログラムの作成	無酸素運動と有酸素運動の組合せ/グループ学習を行う	グループ
13	サーキットトレーニング(ジム) 筋トレプログラムの作成	無酸素運動と有酸素運動の組合せ/グループ学習を行う	グループ
14	筋トレプログラムの発表	実際に作成したプログラムを発表する	グループ
15	これまでの復習	復習する	個人

期末試験	レポート	評価方法	レポート 80%	授業への貢献 10%
			受講態度 10%	

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『競技者の外傷予防』 (医歯薬出版) (公社)全国柔道整復学校協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習復習をしっかり行う。		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保存療法 ※実務経験のある教員等による授業科目	藤井　智貴 整形外科（柔道整復師）4年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	前期	15(30)	実習	1

【授業の概要・目的】

柔道整復師が行う保存療法と整形外科医が行う観血療法を対比しながら、それぞれの特性や要点を学ぶ。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①柔道整復師が行う保存療法のメリット、デメリット、注意点、適応、要点を理解できる。 ②保存療法と観血療法を比較検討することができる。 ③柔道整復師が行う保存療法での後療法を身につけることができる。 ④測定方法を身につけることができる。 ⑤	知識・理解 問題解決力 考え抜く力 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	傷の定義と受診すべき診療科	外傷の定義を正確に知り、柔道整復師が扱うものと病院（各診療科）が対応するものを理解する	ペア・グループ
2	保存療法と観血療法	保存療法と観血療法の内容を把握しメリット、デメリットなどの特性を理解する	ペア・グループ
3	整形外科分野との鑑別診断	整形外科で取り扱われる疾患や外傷について把握し柔道整復との違いについて理解する	ペア・グループ
4	骨折の整復法	柔道整復師が行う骨折の整復法について理解する	ペア・グループ
5	脱臼の整復法	柔道整復師が行う脱臼の整復法について理解する	ペア・グループ
6	軟部組織損傷の初期処置	柔道整復師が行う軟部組織損傷の初期処置について理解する	ペア・グループ
7	手技療法	柔道整復師が行う手技療法について理解する	ペア・グループ
8	触診法①	柔道整復師が行う触診法について理解する①	ペア・グループ
9	触診法②	柔道整復師が行う触診法について理解する②	ペア・グループ
10	関節可動域測定	関節可動域測定について理解する	ペア・グループ
11	周径測定	周径囲測定について理解する	ペア・グループ
12	握力測定	握力測定について理解する	ペア・グループ
13	反射	反射について理解する	ペア・グループ
14	実技試験		ペア・グループ
15	保存療法まとめ	柔道整復術の業務範囲と保存療法の限界を理解する	ペア・グループ

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験　80% 受講態度　20%

【教科書】	（公社）全国柔道整復学校協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 （南江堂）
【参考書】	標準整形外科学 第14版/井樋栄二（医学書院）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復実技Ⅰ(軟部損傷)(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目	三上　将貴 接骨院(柔道整復師)6年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	前期	30(60)	実習	2

【授業の概要・目的】

柔道整復師の業務範囲内の軟部組織損傷の構造を理解するために、触診、検査を学ぶ

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①骨・筋の触診が出来る ②関節構造を理解する ③軟部組織損傷の検査法を理解する ④靭帯の触診が出来る ⑤	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	診察法の基礎	診察法の進め方	グループ
2	頭部・顔面部の軟部組織損傷①	頭部・顔面部打撲	グループ
3	頭部・顔面部の軟部組織損傷②	顎関節症、顎関節捻挫	グループ
4	頸部の軟部組織損傷　その①	むちうち損傷	ペア
5	頸部の軟部組織損傷　その②	胸郭出口症候群、寝違え	ペア
6	胸・背部の軟部組織損傷	胸肋関節損傷、肋間筋損傷 胸背部打撲傷、背部の軟部組織損傷	ペア
7	腰部の軟部組織損傷	関節性、靭帯性、筋・筋膜性	ペア
8	肩関節部の軟部組織損傷①	腱板損傷	ペア
9	肩関節部の軟部組織損傷②	上腕二頭筋長頭腱損傷	ペア
10	肩関節部の軟部組織損傷③	リトルリーガー肩、バンカート損傷、不安定症	ペア
11	肘関節部の軟部組織損傷	靭帯の損傷、野球肘・テニス肘	ペア
12	手関節部の軟部組織損傷	TFCC損傷、ド・ケルバン病、末梢神経障害 キーンベック病、マーデルング変形	ペア
13	手関節部の軟部組織損傷	腱・靭帯の損傷、その他の変性疾患および変形	ペア
14	実技試験		ペア
15	まとめ		個人

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験　80% 受講態度　10%	授業への貢献　10%

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会監修 『柔道整復学・実技編』 第2版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復実技Ⅰ(軟部損傷)(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目	三上　将貴 接骨院(柔道整復師)6年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	後期	30(60)	実習	2

【授業の概要・目的】

柔道整復師の業務範囲内の軟部組織損傷の治療を理解するために、整復・固定・後療法、指導管理を学ぶ

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①骨・筋の触診が出来る ②整復法、固定法を理解する ③応急手当ができる ④後療法を考えることができる ⑤	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	診察法の基礎	診察法の進め方	グループ
2	股関節部の軟部組織損傷	ばね股、梨状筋症候群	グループ
3	大腿部の軟部組織損傷①	大腿部打撲、大腿四頭筋肉離れ	グループ
4	大腿部の軟部組織損傷②	ハムストリングス肉離れ	ペア
5	膝関節部の軟部組織損傷①	半月板損傷	ペア
6	膝関節部の軟部組織損傷②	側副靭帯損傷	ペア
7	膝関節部の軟部組織損傷③	十字靭帯損傷	ペア
8	膝関節部の軟部組織損傷④	腸脛靭帯炎、鵞足炎、その他の疾患	ペア
9	下腿部の軟部組織損傷①	アキレス腱の損傷・断裂	ペア
10	下腿部の軟部組織損傷②	肉離れ、スポーツ障害	ペア
11	足関節部の軟部組織損傷	足関節捻挫	ペア
12	足・趾部の軟部組織損傷	有痛性障害、扁平足障害　を理解する	ペア
13		軟部組織損傷を総合的に理解する	ペア
14	実技試験		ペア
15	まとめ		個人

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験　80% 実習評価　10%	授業への貢献　10%

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会監修 『柔道整復学・実技編』 第2版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床実習Ⅰ(1/2)	小野　博司	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	前期	23(45)	実習	1

【授業の概要・目的】

学内で習得した知識と技術を基に臨床技術を高める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①対象者に対して、基本的な実習をある程度の助言・指導のもとに行える ②保健・医療・福祉の各分野における役割と責任を理解し、学生として相応しい態度をとれる ③実習を通して、自己の自覚を向上させることができる ④ ⑤	コミュンケーションスキル 問題解決力 知識・理解

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	海洋リハビリテーション	基本的身体構造の理解とストレッチの活用について学ぶ	グループ
2	海洋リハビリテーション	マリンスポーツで必要とする体幹機能について学ぶ①	グループ
3	海洋リハビリテーション	マリンスポーツで必要とする体幹機能について学ぶ②	グループ
4	海洋リハビリテーション	マリンスポーツで発生する怪我について学ぶ①	グループ
5	海洋リハビリテーション	マリンスポーツで発生する怪我について学ぶ①	グループ
6	海洋リハビリテーション	マリンスポーツで発生する怪我の応急処置を学ぶ①	グループ
7	海洋リハビリテーション	マリンスポーツで発生する怪我の応急処置を学ぶ②	グループ
8	海洋リハビリテーション	医療従事者の資格取得を目指すべく職業倫理等を学ぶ	グループ

期末試験		評価方法	レポート 80% 受講態度 20%	

【教科書】	特になし
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床実習Ⅰ(2/2)	小野　博司	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	1	後期	23(45)	実習	1

【授業の概要・目的】

座学で習得した知識をもとに臨床技術を高め、臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識を修得する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①基本的な実習を指導者の助言・指導のもとに行える ②保健・医療・福祉の各分野における役割と責任を理解し、学生として相応しい態度をとれる ③実習を通して、自己の自覚を向上させることができる ④ ⑤	コミュンケーションスキル 問題解決力 知識・理解

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	医の倫理、レポートの書き方、守秘義務を理解する	グループ
2	医療者としての態度1	身嗜み、言葉遣い、規律性を身につける	グループ
3	医療者としての態度2	良好なコミュニケーションを築くことができる	グループ
4	付帯義務	施設衛生を保持できる	グループ
5	診察1	医療面接、触診ができる	グループ
6	診察2	計測、検査法、評価ができる	グループ
7	リスクマネジメント	柔道整復術のリスクマネージメントを調べる	グループ
8	包帯術	包帯固定の技術を身につける	グループ
9	テーピング技術	ホワイトテープ固定の技術を身につける	グループ
10	後療法	物理療法、手技療法を身につける	グループ
11	後療法	手技療法、運動療法を身につける	グループ
12	介助	案内、ベッド移乗介助を身につける	グループ
13	症例検討	症例報告書を作成できる	グループ
14	施術録の作成	施術録を作成できる	グループ
15	社会保障	療養費支給申請書の書き方を身につける	グループ

期末試験		評価方法	レポート 80% 受講態度 20%	

【教科書】	特になし
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて